

職員による自己評価

A環境面

共同オフィスのため防犯対策が必要
整理整頓が必要
文化施設や観光地など外出先が豊富

B児童への支援内容

少人数のため一人一人の状況に応じた丁寧な支援が可能
保護者と子どもの状況を共有して、常に支援を見直している
学習に力をいれている
保護者参加の機会を作っている

C関係機関との連携

共同オフィス入居団体の協力が得られる
他事業を通して学校、地域活動ホーム等との連携がある

D保護者への説明責任・信頼関係

少人数であり、保護者による送迎が、多い為、日常的な情報効果ができる
連絡帳やお便りで活動や子どもの状況を伝えている

E非常対応

法人主催の防災訓練の他、ビル管理法人によるテナント防災訓練にも参加し、デスタッ

保護者による評価

A環境面

子どもの活動等のスペースがもう少し広いと良い
お出かけを子どもが楽しみにしている

B児童への支援内容

保護者のニーズや課題の分析と計画は普通
活動プログラムは固定化せず工夫されている
障害のない子どもとの交流があると良い

C事業所からの情報発信

支援内容や負担については説明されている
子どもの発達状況や課題について共通理解ができている
保護者との面談や支援はされている
保護者会等はない
苦情対応の体制はある
子どもや保護者との情報伝達の配慮がある
活動概要や行事について会報がある
個人情報に留意している

D非常対応

緊急対応マニュアルがあり、災害・荒天時の対応について周知されている
非常時に備えて定期的に訓練をしている

事業所内での分析

【共通点】

一年たち、プログラムや支援方法が安定してきた
保護者とスタッフ、スタッフ間の情報共有の仕組みができてきた
ミーティングでの意見交換が活発になってきている
教材、遊具、什器等の整理整頓が必要
近隣に文化施設や観光地、イベントが多く、外出プログラムが充実している
花時計プロジェクト、チャレンジ・ド・サロンへの参加により、活動の幅が広がっている
利用者が少なく、子どもの安定には適しているが、子ども同士の関係が近くなりすぎる

【相違点】

スタッフそれぞれの経験・知識による障害の受け止め方が微妙にことなっている
情報伝達を徹底

分析・検討してみて…

事業所の強み

共同オフィス、特別支援学校との連携
少人数による臨機応変な支援
多様な経験・知識を持つスタッフ

事業所の改善点

環境整備
長期展望の支援計画の策定
要支援度のことなる利用者の受け入れ調整
防災対策
利用者・支援者を増やす

事業所の改善への取り組み

スキルアップのための研修の開催
スタッフ間の連携強化

～自己評価を行っての事業所としての感想など～

新人スタッフ、新しい利用者が自己評価に参加していないので、今後取り組んでいきたい。
おおむね利用者保護者との関係性はできているので、子どもを中心において連携しながら支援していきたい
当初の想定よりも重度な利用者が多く、より一層の研鑽が必要

事業所名 移さびよん ホットスポット

担当者 榎並 山野上